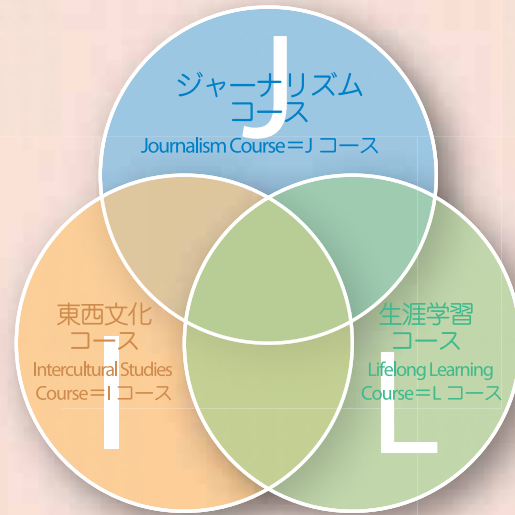


真実を見抜き新しい時代を切り拓く

3つのコース

いままさに、地球規模で進む情報化社会にあって、また少子高齢化や格差拡大が急速に進む現代の日本社会において、異なる国や地域の言語と文化を正しく理解し、生涯を通じて健康で生きがいのある社会の創造を担い、かつ氾濫する情報のなかから真実を見抜き目を養うことが必要とされています。このために本学科は、これまでの文学部が大切にきたリベラルアーツの伝統を踏まえつつ、各分野の研究の深化と連携を通じて今日的な課題を乗り越えるために、「東西文化」「生涯学習」「ジャーナリズム」の3コースを設定しました。コースには2年次から所属します。そのためコース分けは、1年次の後期に行ないます。



【在学生の声】

中山華奈さん
(なかやま かな)

【東西文化コース】

今、著しいスピードでグローバル化が進みながらも、国境や民族、紛争の問題が現れてきました。その裏には歴史的な原因が潜んでいますが、ニュースではそうした事実はなかなか表面化しません。私は入学当初はJコース志望でした。でも、東西文化概論の授業を受け、中国語を学ぶうちに、今、世界で起こっている悲惨な事件の原因や背景を追究したくなりました。GDPが世界第2位となった中国ですが、その裏では様々な犠牲が生まれています。中国の広大な土地には多くの民族が暮らしています。私は中国の経済的な面だけでなく、歴史や文化についても勉強していきたいと思いました。物事を語るためには、確かな知識と語学力を身につけなければなりません。一方的な見方でなく、広い視野で見る必要があります。大学で身につけたものは私の力、強みになり、この能力が活かせる場所が必ずあります。世界にはその可能性が溢れているのです。



十川 彩さん
(そがわ あや)

【生涯学習コース】

子どもたちが、いきいき生きることができる環境づくりをサポートすることが目標です。父子家庭・母子家庭の子どもたち、心を閉ざしてしまった子どもたち、施設で育つ子どもたち、心や体に障がいを持つ子どもたち、どんな子ども「生きたい」と思える環境づくりをしたいと思い、地域社会の子育て・教育支援の現場などでの実習ができるこのコースを選択しました。私は小学生の時に家庭環境が大きく変わりましたが、周りの方々のサポートにより、現在は家族全員が前向きに生きることができています。しかし、私のような家庭ばかりでないのが社会の現状であり、日本は本当に必要な子育て支援をできているのか疑問が残ります。具体的な職業は模索中ですが、JコースやIコースの科目をバランスよく取り入れて幅広い教養と実践力を身につけ、子ども福祉に貢献できる人物になりたいと考えています。



中村さつきさん
(なかむら さつき)

【ジャーナリズムコース】

新聞やテレビでは毎日多くの情報が発信され、世の中は情報に満ちています。情報がたくさんあふれる世の中で必要なことは何でしょうか。新聞やテレビで報道されている物事は、大きな物事のほんの一部にすぎません。またそれがいつも正しいとも限りません。だからこそ本当は何が正しいのか、「自分で適切な判断ができること」は重要です。1年次に取り組んだ米軍基地問題についての学習では、自分たちがインターネットや新聞で調べたことと、沖縄で現地の人たちの話をうかがったことでは意見がまったく違うことや、現地に行ってみて初めて分かることがたくさんありました。日本のジャーナリズムを知ることは日本の社会を知ることであり、マスコミや報道に興味をもていたら、ぜひこのコースがお勧めです。



東西文化コース

Intercultural Studies Course=Iコース

東西文化コースは、語学力を基礎として、世界の多様な文化の由来と在り方、またそれらの相互交流の諸相を正確に理解することをめざします。そして、それらの地域の人々と能動的に対応できる柔軟な思考力を持つ人材を育てます。本コースが設定する各講座は、アジア及び大陸ヨーロッパを主要な教育・研究領域として見据えつつも、従来のアジア・ヨーロッパの対立的枠組みにとらわれることなく、新興著しい中南米地域を視野に収めたことが大きな特色です。海外語学留学を正規科目として積極的に位置づけ、外国語の習得と異文化との積極的な触れ合いを学習の柱とします。

中国伝統文化、日中文化交流史

中国の伝統文化を、漢詩などの古典文学を中心に考えています。過去から現在に至るまで中国人の価値観の中心を貫くもの、いわば人生の美学のようなものを、つきつめたいと思います。



松原 朗
(まつばら あきら)

比較文化論、東西文化交渉論

衣・食・住、そして語りを通して、ヨーロッパとアジアの文化を比較したいと思います。21世紀は情報の時代です。生活を足元から見直し、あふれる情報を整理して、発信する力を身につけましょう。



樋口 淳
(ひぐち あつし)

文化人類学、朝鮮半島の地域研究

韓国で人類学的フィールドワークをしています。異文化理解の面白さや「越境」の思考や行動について皆さんと共に学びたいと思っています。



網野房子
(あみの ふみこ)

メキシコ史、中南米文化研究

専門はアステカなどのメキシコ先住民の歴史です。ラテンアメリカの諸文化を学びながら、専門的知識を身につけるのはもちろん、現代社会や世界各地の文化を柔軟に見ることのできる視野を培いたいと考えています。



井上幸孝
(いのうえ ゆきたか)

陶磁史から見た交易のシステム

遺跡から出土する「遺物」は、「文献」の記録に残らない史実を復元する材料の1つです。「遺物」としての「陶磁器」を中心に、生産から流通、消費までの交易のシステムをふりかえり、東西文化交流の実像にせまりたいと思います。



高島裕之
(たかしま ひろゆき)

主な科目

- ・「交易の文化・文化の交易」論
- ・文化の衝突と融合
- ・中国の文化と歴史
- ・コリアの文化と歴史
- ・ヨーロッパの文化と歴史
- ・中南米の文化と歴史
- ・アジア学特殊講義
- ・ヨーロッパ学特殊講義
- ・日本の中の世界
- ・アジアから見た日本
- ・ヨーロッパから見た日本
- ・中国語文化演習
- ・コリア語文化演習
- ・フランス語文化演習
- ・ドイツ語文化演習
- ・スペイン語文化演習
- ・イスラムの歴史
- ・中期留学プログラム

授業風景



生涯学習コース

Lifelong Learning Course=L コース

生涯学習コースは、少子化、長寿社会化、格差社会化という目下の日本の社会的問題と正面から向き合い、問題解決の重要な方向性である生涯学習社会の形成と、その内実をなす個人のライフサイクルに合わせた学習やスポーツ・レクリエーション活動のあり方について、理論的・実践的に取り組んでいきます。生涯学習の視点から学校教育を考えられる教員、生涯学習・スポーツ分野の指導者や行政担当者、生涯学習を実践し続ける社会人の育成を目指します。このコースの授業科目では、スポーツ施設や生涯学習施設、地域社会の子育て・教育支援の現場などでの実習、ワークショップ実習、具体的な種目の実践を通したスポーツ学習、生涯学習調査を含め、社会において役立ち応用が利く能力が身に付くよう工夫されています。

スポーツ情報戦略、コンディショニング

スポーツは、メディアを通して人々に夢と感動を与えています。心身の健康を考える上でもスポーツは、重要な役割を担っています。スポーツの持つ可能性について学んでいきます。



久木留毅 (くきどめ たけし)

教育社会学、人権・平和学習論

格差社会・学歴社会を打破するためには、人々が生涯学び・活動し続ける「学習社会」を形成する必要があります。そのような現代社会の問題・課題と解決策について学びます。



鐘ヶ江晴彦 (かねがえ はるひこ)

生涯学習政策論、図書館情報学

急速な社会変化に対応するために、「大人の」学習活動が注目されています。実用性はもちろん、楽しく感動的な「大人の学びのあり方」を、とことん追究しましょう。



萩原幸子 (あぎわら さちこ)

ワークショップ研究、臨床教育学

心が動かなければ学んだとは言えない。「出会い」のある新しい学びと創造の手法＝ワークショップを活用できる人材を私は育てます。



小峰直史 (こみね なおふみ)

スポーツ心理学、メンタルトレーニング

どのように心と身体がつながっているのか、健康増進、スポーツ競技などでどう活かされているのかを、自分自身のことにおきかえ学んでいきます。



平田大輔 (ひらた だいすけ)

生涯スポーツ論

生涯スポーツは、人間の生活や生涯をより豊かにするための身体活動や運動を継続して楽しむことです。生涯スポーツを実践するためには、各世代のライフステージに応じたスポーツの必要性や現状を理解し、エビデンス(科学的根拠)に基づいたスポーツプログラムが重要であり、その両面から生涯スポーツについて考えていきます。



相澤勝治 (あいざわ かつじ)

主な科目

- ・ライフサイクル論
- ・生涯教育・学習思想
- ・エイジング論
- ・生涯スポーツ
- ・生涯学習心理学
- ・スポーツの心理学
- ・スポーツの社会学
- ・生涯学習計画論
- ・生涯学習政策論
- ・生涯学習施設論
- ・生涯学習情報論
- ・ジェンダー教育論
- ・生涯学習調査実習
- ・生涯スポーツ演習
- ・ワークショップ設計演習
- ・スポーツ政策
- ・スポーツビジネス
- ・スポーツ情報戦略論
- ・メンタルトレーニング
- ・青少年学習指導論
- ・高齢者学習論
- ・青少年スポーツ論
- ・高齢者スポーツ・レクリエーション論
- ・教育・学習支援NPO論
- ・障害者学習論

授業風景



ジャーナリズムコース

Journalism Course=J コース

ジャーナリズムコースは、好奇心、行動力、想像力豊かな学生を求めます。カリキュラムは、現実社会とのかかわりのなかで、多様な価値観を学べるよう工夫されています。たとえば、戦争、沖縄、報道写真といった個別のジャーナリズム領域における課題と向き合うユニークな講座があります。そこでは、日本写真家協会、沖縄タイムス、毎日新聞、読売新聞との協力のもと、写真家や記者が皆さんをジャーナリズムの世界に誘います。メディアや情報ツールを使いこなして正確に情報収集・分析・加工し、それを社会に対して的確に伝えることができる人材を育てます。そして、ジャーナリスト、アーキビスト、司書・学芸員として活躍するための基礎力を養成するとともに、一般企業やNGO・NPOのスタッフとして十分な高度でユニークな情報リテラシーの習得をめざします。

言論法、ジャーナリズム研究

一緒に「汗」をかきましょう。実際に足を動かして頭で考えることで、物事の本質が見えてきます。韓国の大統領選挙を観察しに行ったり(07年)、沖縄ジャーナリズムを実感するためにガマにも入りました(08年)。



山田健太 (やまだ けんた)

教育メディア論、図書館情報学

情報化社会のなかにあつて、さまざまな情報メディアを収集、蓄積、保管し、市民に提供する施設である図書館の歴史やサービスのあり方を主に研究しています。Jコースで情報のスペシャリストを目指しませんか。



野口武悟 (のぐち たけのり)

ジャーナリズム論、メディア史

メディアは社会を映す鏡。でもその鏡は、時に大きく歪んで、人々を誤らせもします。社会のさまざまな現場を実際に歩き、自分の頭で考え、皆で議論しましょう。いまの社会やメディアの姿が見えてくるはずですよ。



藤森 研 (ふじもり けん)

Jコースの科目は大きく以下の4つにグループ分けされ、おおよそAとBを2～3年で、CとDを3～4年で学習します(ただし、マスコミ概論は1年で必修)。多くの科目は、テレビや書籍・新聞等でもおなじみの、現場の一端で活躍する写真家や記者が講義を担当します。

- A: 媒体別学習を通じてジャーナリズムの基礎を知る科目群(○○学・○○論)
放送 新聞 出版 広告宣伝 インターネット
- B: 社会の構成要素を通してジャーナリズムの社会的位置づけを知る科目群(○○とメディア)
技術 教育 言葉 娯楽 市民 社会
- AとBに共通する基礎科目
言論法(メディアを支える制度・倫理) 情報メディア発達史(情報・メディアの歴史)
マス・コミュニケーション概論(メディア学習のための体系的概論)
- C: 個別領域ごとのジャーナリズムの(力)を確認する科目群(○○ジャーナリズム論)
国際 戦争 沖縄 政治 スポーツ 報道写真
- D: ジャーナリズムをより深く学ぶための応用学習のための科目群(○○特講など)
メディア批評 メディア判例研究 情報弱者支援 メディアビジネス 情報マネジメント
- A～Dと並行して行う演習形式の科目
インターンシップ ジャーナリズム研究 セミナール

- ・新聞学
- ・放送学
- ・出版学
- ・広告宣伝論
- ・インターネット論
- ・言葉とメディア
- ・教育とメディア
- ・娯楽とメディア
- ・市民とメディア
- ・技術とメディア
- ・社会とメディア
- ・情報メディア発達史
- ・日本写真家協会協力講座/報道写真論
- ・毎日新聞社協力講座/国際ジャーナリズム論
- ・読売新聞社協力講座/政治ジャーナリズム論
- ・沖縄タイムス協力講座/沖縄ジャーナリズム論
- ・戦争ジャーナリズム論
- ・スポーツジャーナリズム論
- ・言論法
- ・メディアビジネス論
- ・情報弱者支援論
- ・情報マネジメント論
- ・メディア判例研究特講
- ・メディア批評特講

主な科目

授業風景



日本語学科
日本文学・文化学科
英語・英米文学科
哲学
歴史学
環境地理学科
人文学部
ジャーナリズム学科